

2027年3月期 第1四半期 決算説明資料

証券コード：5332

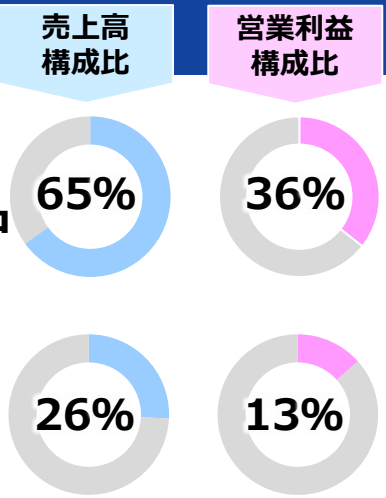
TOTO株式会社
2026.7.31

はじめに：TOTO事業概要

※売上高/営業利益構成比は2025年度実績
全社調整額を除いたベース

<グローバル住設事業>

- 日本**
 - ・ 100年以上にわたり市場を築き上げた基幹事業
 - ・ 新築需要に依存しないリモデル事業を主とし、幅広い商品を提案
 - ・ 各種コスト増により利益漸減。収益性改善のため構造改革を推進中
- 海外**
 - ・ その国・地域に必要な存在になることを目指す
 - ・ ウォシュレット・節水便器を重点商品に据え、特に米州とアジア・オセアニアは今後の成長ドライバー
 - ・ 中国大陆は業績が急激に悪化し構造改革を推進中



主な商品

衛生陶器



高い品質で
世界をリード

温水洗浄便座・ウォシュレット



主力であり海外の成長
ドライバー。住設事業で
収益性が最も高い



水栓金具

快適性、節水性と
デザイン性を追求

浴槽/ユニットバス
洗面化粧台
システムキッチン
等

<TOTOグループ開発・生産体制>

開発体制

独自技術開発による価値創造

<総合研究所・各事業部>

<独自コア技術>

例：



衛生陶器の高度な
成形・焼成技術



水栓金具の研磨・
加工技術

住設の技術を新領域事業の
商品開発・生産にも転用

<新領域事業>

※詳細は次頁

静電チャック

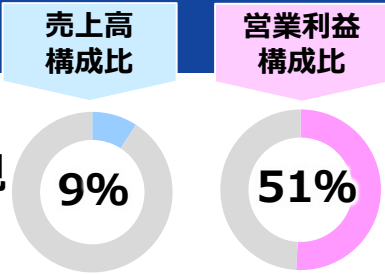


AD部材



はじめに：TOTO事業概要

<新領域事業（セラミック）>

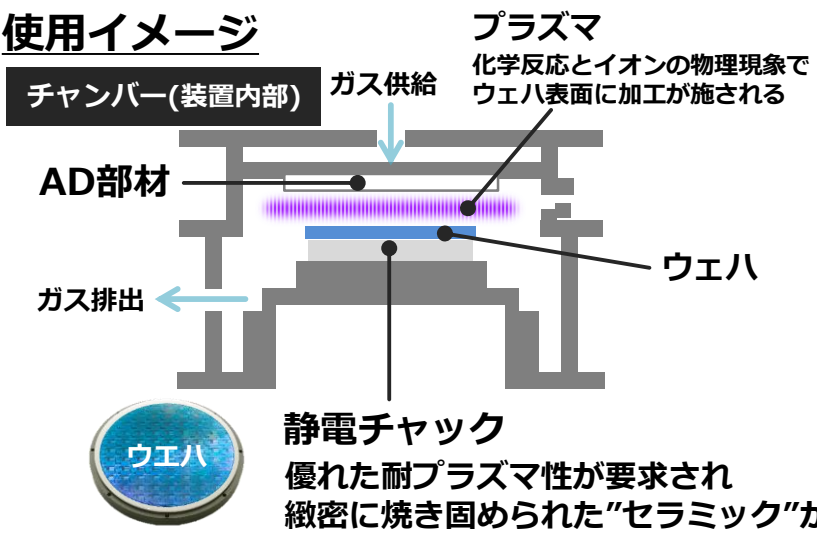


- ・主力は半導体製造装置向けの高品位・高精密セラミック製部材
- ・開発・生産面でTOTOグループ内の全事業部と連携し、高い収益性を実現

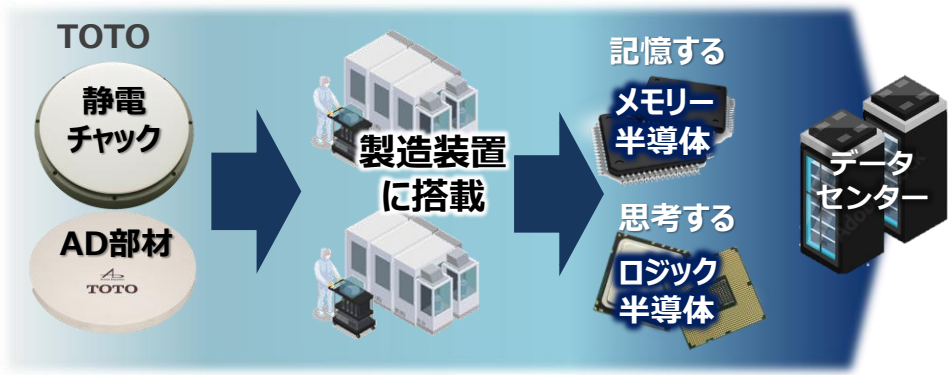
主な製品

静電チャック 	・半導体製造装置内でウェハを固定する部材 ・高純度セラミック素材による圧倒的な耐久性が評価され、NAND型フラッシュメモリ向けの製造装置の極低温エッチング工程に採用されている。
AD部材 	・半導体製造装置の天井材に使われる部材 ・独自開発したAD法※で形成したセラミックス膜は、緻密かつ高密着なため耐プラズマ性が高く、超微細なパーティクルの発生を防止する。 ・ロジック半導体向けの製造装置のエッチング工程に採用されている。 ※エアロゾルデポジション法

使用イメージ



製品の位置づけ



1. 2027年3月期第1四半期 決算

増収減益。概ね計画通りの進捗。

日本住設事業：減収減益

- ◆中東情勢影響による浴室商品の販売減及び外部調達コスト増等により減収減益。
- ◆売上は上記影響を織り込んだ前提で計画通り進捗、営業利益は上振れ。

海外住設事業：増収減益

- ◆米州事業は、衛生陶器の新商品効果等により増収も、成長投資等により赤字。
(グループ会社業績は黒字)
- ◆アジア事業は、増収減益。台湾地域・ベトナム等の主要地域の販売は引き続き好調。
- ◆欧州事業は、ウォシュレットの継続的な販売増により増収黒字。
- ◆中国大陸事業は、小売好調により増収。事業構造改革効果により赤字幅は大幅縮小。
(グループ会社業績は黒字化)
- ◆海外住設事業全体で、売上・営業利益共に計画通りの進捗。

新領域事業（セラミック）：増収増益

- ◆サプライチェーン影響による出荷期ズレが発生するも為替効果で増収増益。
- ◆1Qは計画未達も一時的影響であり2Qで挽回予定。

	2025年度 1Q	2026年度 1Q	前年差 (前年比)	為替 影響額	為替影響除 前年差(前年比)
売上高	1,657	1,686	+29 (102%)	+37	▲8 (100%)
営業利益 【営業利益率】	82 【5.0%】	81 【4.8%】	▲1 (98%) 【▲0.2pt】	+6	▲7 (91%)
経常利益	87	94	+6 (107%)	+27	▲21 (77%)
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	63	69	+6 (110%)	+18	▲12 (81%)

■為替レート（期中平均）

	2025年 1月～3月	2025年 4月～6月	2025年 7月～9月	2025年 10月～12月	2026年 1月～3月	2026年 4月～6月
1ドル	152.6円	144.6円	147.5円	154.1円	157.0円	159.6円
1元	20.9円	20.0円	20.6円	21.7円	22.7円	23.5円
1ユーロ	160.6円	163.8円	172.3円	179.4円	183.7円	185.4円
1台湾ドル	4.6円	4.7円	4.9円	5.0円	5.0円	5.1円
1ドン	0.0060円	0.0056円	0.0056円	0.0059円	0.0060円	0.0061円
1タイバーツ	4.5円	4.4円	4.6円	4.8円	5.0円	4.9円
1インドルピー	1.8円	1.7円	1.7円	1.7円	1.7円	1.7円

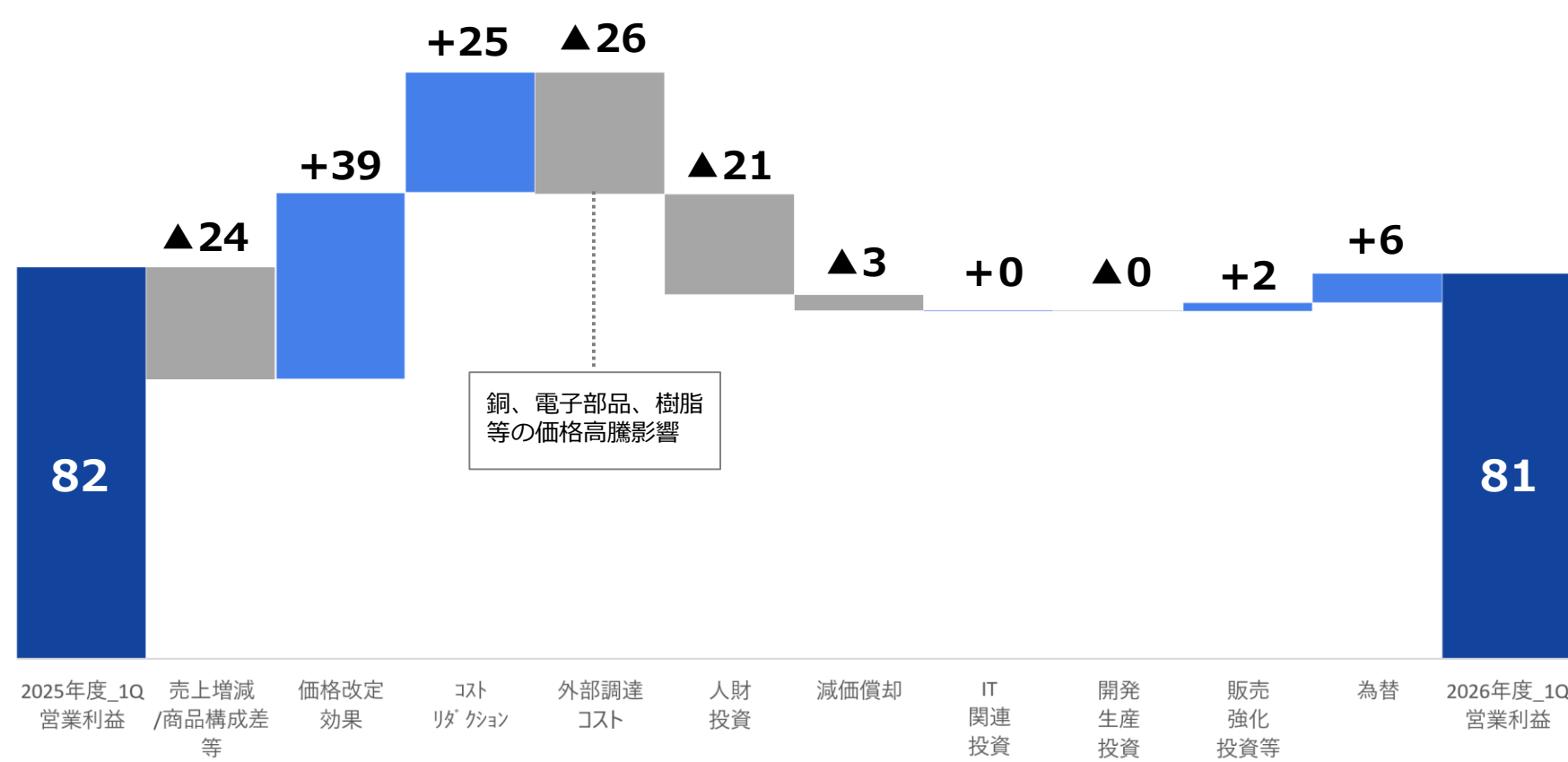
〈対象事業期間〉

- 日本住設事業
新領域事業
2026年4月～6月
- 海外住設事業
2026年1月～3月
(インド2026年4月～6月)

増収減益

全社営業利益の増減要因

単位：億円



中東情勢における業績影響（営業利益）：約▲30億円

中東情勢影響による販売減、外部調達コスト増はあったものの、コストリダクションや価格改定効果による押し上げにより営業利益は前年並みの実績。

セグメント別業績

〈対象事業期間〉
日本住設事業、新領域事業：2026年4月～2026年6月
海外住設事業：2026年1月～3月（インドは2026年4月～2026年6月）

単位：億円

<売上高>	2025年度 1Q	2026年度 1Q	前年差 (前年比)	※新領域：セラミック事業	
				為替 影響額	為替影響除 前年差(前年比)
日本住設	1,084	1,056	▲28 (97%)		▲28 (97%)
海外住設	422	470	+48 (111%)	+23	+24 (106%)
新領域 ※	151	160	+9 (106%)	+13	▲4 (97%)
その他	1	1	+0		+0
合計	1,657	1,686	+29 (102%)	+37	▲8 (99.5%)

<営業利益>	2025年度 1Q	2026年度 1Q	前年差 (前年比)		
				為替 影響額	為替影響除 前年差(前年比)
日本住設	12	6	▲5 (54%)	▲9	+4 (134%)
海外住設	17	16	▲2 (91%)	+2	▲4 (78%)
新領域 ※	59	65	+6 (110%)	+13	▲7 (88%)
その他	-6	-6	▲0		▲0
合計	82	81	▲1 (98%)	+6	▲7 (91%)

※共通費の配賦方法を一部見直し（前年度数値も遡及値に変更）

日本住設事業は減収減益、海外住設事業は増収減益、
新領域事業（セラミック）は増収増益。

リモデル（前年比）

売上高 751 億円（98 %）

営業利益 12 億円（▲4 億円）

新築（前年比）

売上高 305 億円（96 %）

営業利益 -6 億円（▲1 億円）

リモデル事業の状況

〈パブリックリモデル〉

- 宿泊施設向け売上が堅調。
 - ・ 客室改修のため、ウォシュレット一体形便器やユニットバスルームが2桁伸長。
 - ・ インバウンド、国内の観光、出張、大規模イベント増により市場は拡大傾向。

〈2026年8月発売の新商品〉

ホテル向けウォシュレット

使用時に瞬時にお湯をつくる「瞬間式」化により、お客様の快適性と施設の省エネ性能を両立



- オフィス向け売上も継続して前年伸長。
 - ・ 都市圏においてストックが豊富。
 - ・ 出社回帰と人材確保のための投資も拡大。

〈サプライチェーンの状況〉

- 浴室は、段階的に受注を再開していたが6月9日に通常対応を再開。
- その他商品を含め、全商品問題なし。

〈構造改革の状況〉

- 計画通り推進

浴室の段階的受注再開対応の影響で減収。中東影響による外部調達コスト増と人財投資影響で減益（→26年12月に価格改定を実施）。

価格改定 実施時期

2026年12月1日受注分より

原材料価格等の高騰が継続しており、更に中東影響も受け、生産性の向上や合理化によるコストリダクション等の企業努力だけでは吸収することが困難と判断したため、日本住設事業における価格改定を実施。

■ 主な対象商品と改定率

対象商品	平均改定率
衛生陶器	13%
システムトイレ	9%
ウォシュレット（一体形便器・シートタイプ）	10%
水栓金具	8%
ユニットバス・システムバス	8%
洗面化粧台	9%
その他商品	9%

https://jp.toto.com/company/press/2026_07_31_02/

海外住設事業_地域別業績

単位：億円

※連結調整、
共通費の配賦含む

売上高	2025年度 1Q	2026年度 1Q	前年差 (前年比)	為替 影響額	為替影響除 前年差(前年比)
米州事業	187	200	+13 (107%)	+6	+7 (104%)
アジア事業	112	126	+15 (113%)	+6	+9 (108%)
欧州事業	15	19	+4 (129%)	+2	+2 (113%)
中国大陸事業	108	124	+16 (114%)	+9	+6 (106%)
合計	422	470	+48 (111%)	+23	+24 (106%)
営業利益	2025年度 1Q	2026年度 1Q	前年差 (前年比)	為替 影響額	為替影響除 前年差(前年比)
米州事業	11	-1	▲12	+0	▲12
アジア事業	22	19	▲3 (88%)	+2	▲4 (80%)
欧州事業	1	0	▲0 (53%)	+0	▲1
中国大陸事業	-16	-3	+13	+0	+13
合計	17	16	▲2 (91%)	+2	▲4 (78%)

※共通費の配賦方法を一部見直し（前年度数値も遡及値に変更）

海外住設事業全体で増収減益。

※連結調整、共通費の配賦等は含まない

売上高（前年比）

128 百万ドル（104%）

営業利益（前年差）

3 百万ドル（▲5 百万ドル）

2026年度_2Q（2026年_4月～6月）売上高伸長率：前年比 101% ※代理店の在庫調整影響により一時的に鈍化。
セルアウトは2桁伸長と好調維持

■商品別伸長率

		前年比	売上高 構成比
売上高	衛生陶器	113%	52%
	温水洗浄便座 「ウォシュレット」	99%	38%
	水栓金具	105%	8%
販売台数	温水洗浄便座 「ウォシュレット」	88%	

ウォシュレット販売台数
2026年度_2Q（2026年_4月～6月） 前年比：120%

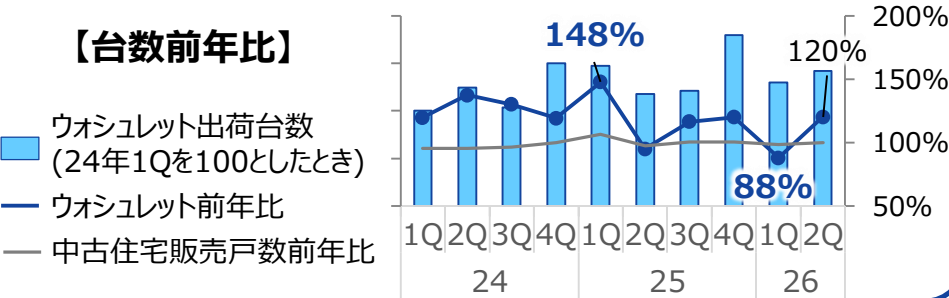
■市況動向とウォシュレット販売状況

市況 中古住宅販売戸数前年比（納入時期ベース）
2026年 1～3月 ：99%
先行き不透明感や購買行動変化等による市況低迷の中、
温水洗浄便座市場の需要は堅調。

ウォシュレット販売

前年に、新商品発売に伴うセルインがあった反動で
前年減も、需要は堅調。上期計では全チャネルで前年超え。

【台数前年比】



衛陶の新商品効果等により増収。ウォシュレットは前年のセルイン反動で減収も2Q以降回復見込み。営業利益は成長投資等により減益。

■売上高（前年比）

※連結調整、共通費の配賦等は含まない

台湾地域	1,500 百万台湾ドル	(103%)
ベトナム	3,035 億ドン	(157%)
インド	776 百万ルピー	(119%)
タイ	146 百万バーツ	(101%)

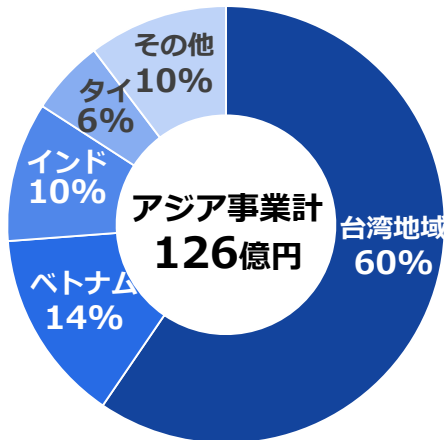
■各国・地域の状況

台湾地域：ウォシュレット販売が好調
 ベトナム：市況回復と販売施策効果により継続伸長
 インド：販路拡大等の効果で増収
 タイ：市況影響により前年並みの売上水準

2Q（4月～6月）	売上高前年比
台湾地域	103%
ベトナム	119%
タイ	105%

※インド決算期
 2026年4月～2027年3月

■売上高_構成比（億円）



■商品別伸長率（億円）

アジア全体		前年比	売上高 構成比
売上高	衛生陶器	103%	41%
	温水洗浄便座 「ウォシュレット」	127%	29%
	水栓金具	120%	27%
販売台数	温水洗浄便座 「ウォシュレット」	143%	

ウォシュレット販売台数
 2026年度_2Q（2026年4月～6月）前年比：118%

台湾地域は、ウォシュレットの拡販等で増収。
 ベトナムは市況の回復と新商品等の拡販効果により増収。

※連結調整、共通費の配賦等は含まない

売上高（前年比）

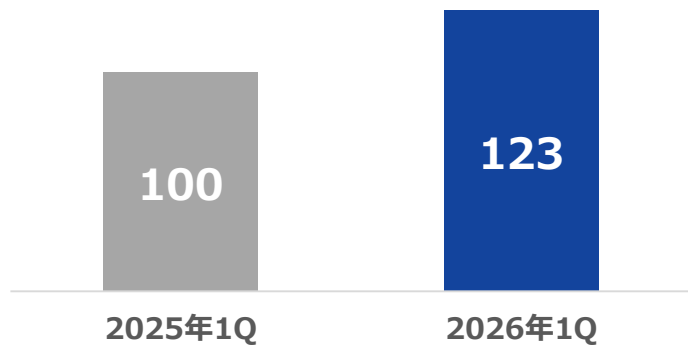
10 百万ユーロ（**113%**）

営業利益（前年差）

1 百万ユーロ（**+0** 百万ユーロ）

2026年度_2Q（2026年_4月～6月）売上高伸長率：前年比 114%

■ウォシュレット 販売台数伸長（指数）



2026年度_2Q（2026年_4月～6月）前年比：118%

■欧州市場での地位確立に向けた取組み

26年5月、ロンドンショールームをリニューアルオープン。
実機展示の増強・技術展示の充実により、
TOTOブランドの発信力を高め、商品採用へ繋げる。



メイン展示スペース



オープニングイベント

Image credits: @ella_ling_photography

重点プランマーに対するウォシュレットの拡販効果等により増収黒字継続。

※連結調整、共通費の配賦等は含まない

売上高（前年比）

547 百万元（106%）

営業利益（前年差）

22 百万元（+82 百万元）

2026年度_2Q（2026年_4月～6月）売上高伸長率：前年比 94% ※現場の売上減影響で前年割れも小売は120%以上伸長

■ 商品別伸長率

		前年比	売上高 構成比
売上高	衛生陶器	106%	45%
	温水洗浄便座 「ウォシュレット」	110%	30%
	水栓金具	99%	20%
販売台数	温水洗浄便座 「ウォシュレット」	100%	

ウォシュレット販売台数
2026年度_2Q（2026年_4月～6月） 前年比：104%

■ 事業構造改革の進捗（2025年4月発表）

- 生産 **会社清算手続き中**
【工場閉鎖・人員最適化で固定費圧縮】
- 販売 **計画通り進捗**
重点都市圏で業者と連携しリモデル提案を実施
- 商品 **計画通り進捗**
中高級・中級向け新商品（ウォシュレット一体形便器）
の売れ行きが好調。中高級・高級へのシフトアップ
含め小売業績に寄与
【小売好調で現場売上減をカバー】

小売好調により増収。事業構造改革による戦略商品投入と
固定費圧縮効果等により、大幅増益（黒字化）。

売上高（前年比）

160 億円（106%）

営業利益（前年差）

65 億円（+6 億円）

■主力製品・各需要の状況

| 静電チャック



データセンター需要増に伴う先端半導体市況は引き続き好調。

需要急増に対するサプライチェーン全体の設備納入や部材供給の遅れが当社へも影響し、納入が2Q以降に期ズレ。

今後の需要増を見据え、生産増強&次世代品開発投資も計画どおり断行し、TOTOの強みを磨きながら長期事業成長を目指す（P17、22参照）

| AD部材



AI関連需要は堅調に推移、かつ生産性の向上により増収。

サプライチェーン影響による出荷期ズレが発生するも為替効果で増収増益。
1Qは計画未達も一時的影響であり2Qで挽回予定。

新領域事業〈セラミック事業〉：茅ヶ崎工場・研究開発棟の新設

セラミック事業の成長を牽引する次世代R&D拠点の構築

目的：「静電チャック」および「AD部材」の研究開発体制の強化
計画：2026年12月着工～2028年4月竣工予定



※2026年4月リリース発表:セラミック事業の成長投資:約300億円



現行品を超える高機能化

次世代品R&Dの加速

開発スピードアップ

試作ライン拡張による開発期間の短縮

https://jp.toto.com/company/press/2026_07_31/

次世代品開発における顧客の要求にスピーディーに対応する体制を強化。TOTOグループのシナジーを発揮し、今後も先端半導体の製造を下支えしていく。

米州住設事業では在庫調整の影響や、新領域事業では半導体サプライチェーン混乱の影響を受けているものの、いずれも一時的な影響であり通期では当初計画を達成する見込み。

2027年3月期計画（4月30日発表）

	2025年度	2026年度	前年差 (前年比)
売上高	7,374	7,850	+476 (106%)
営業利益 【営業利益率】	538 【7.3%】	600 【7.6%】	+62 (112%) 【+0.4pt】
経常利益	607	585	▲22 (96%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	403	460	+57 (114%)
ROA	6.6%	7.2%	+0.6pt
ROE	7.7%	8.5%	+0.8pt
TOTO版ROIC	6.9%	8.6%	+1.6pt

TOTO版ROIC
税引後営業利益
運転資本+固定資産

2. トピックス

■ 「Dow Jones Best-in-Class World Index」 14回目の選定

https://jp.toto.com/company/press/2026_05_13/

GPIFが採用するESG投資向けの全ての指数で選定

■ 「FTSE4Good Index Series」 構成銘柄：11年連続で選定

「FTSE JPX Blossom Japan Index」

「FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index」 構成銘柄に継続選定

https://jp.toto.com/company/press/2026_07_15/

■ 「MSCI日本株ESGセレクト・ リーダーズ指数」：2年連続

「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」：9年連続で構成銘柄に継続選定

■ 「S&P/JPXカーボン・ エフィシエント指数」

「Morningstar日本株式ジェンダー・ ダイバーシティ・ ティルト指数（除くREIT）」

https://jp.toto.com/company/press/2026_06_16_01/

■ CDP 「サプライヤーエンゲージメント評価」

最高評価「リーダーボード」に4年連続選定

https://jp.toto.com/company/press/2026_05_25/

「きれいで快適・健康な暮らしの実現」・「社会・地球環境への貢献」を
目指し、引き続きサステナビリティ経営を推進していく。

3. 参考情報

■ 長期展望におけるTOTOの強み

	3D NANDメモリ向け	ロジック向け	
エッチング装置の技術革新	・半導体の複層化における深堀技術革新 ⇒ハイパワーかつ極低温環境	・徹底した低パーティクル ・数ナノレベルの極微細化 ⇒ウェハの正確な温度制御	
TOTOの特性	【静電チャック】 ・圧倒的に高い素材純度⇒高耐久性・高寿命 ・超高精度な表面加工 ⇒正確なウェハ温度制御 ・独自の接着 & 絶縁技術⇒極低温下での性能維持 高耐久性・低パーティクル性を中心に顧客から高い評価・圧倒的な信頼を獲得。 強固な信頼関係のもとで次世代品の研究開発を継続中。	【AD部材】 独自の緻密膜生成 ⇒業界最高水準の低パーティクル	【静電チャック】 ・高精度ヒーター制御 ⇒均一な温度制御 ・圧倒的な高純度 ⇒高耐久性・高寿命
	【生産体制】 徹底したスマートファクトリー化による高歩留り・高収益体制の実現 (需要調整期で売上が急減した23年度も営業利益率30%を堅持)		
業績ドライバー	・新世代品の継続的な付加価値アップ ・新設装置への納入 & 市中チャンバーストック拡大による数量増 ・デバイスメーカー稼働増による交換需要の拡大	・新世代品の継続的な付加価値アップ ・新設装置への納入拡大	

独自技術 & 生産体制により、先端製造装置の技術革新を支え、
長期的な事業成長を目指す。

このプレゼンテーション資料は、2026年7月31日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があります。

あしたを、ちがう「まいにち」に。

TOTO